2024年度　決算説明会

事業概況

2025年5月14日

日揮ホールディングス株式会社

代表取締役会長兼社長CEO

佐藤 雅之

本資料の複製・転載・改変・再配布を禁止します。

目次

総合エンジニアリング事業

1. マーケット環境の現況および見通し
2. 2025年度 受注目標
3. 主要な遂行中プロジェクト
4. 海外EPC遂行体制の強化

機能材製造事業

1. 2024年度実績と2025年度目標
2. 生産能力強化に向けた設備投資の推進

中期経営計画の状況と対応すべきポイント

1. 中期経営計画の状況と対応すべきポイント

Appendix.

総合エンジニアリング事業

1. マーケット環境の現況および見通し

LNGを中心に案件は豊富に存在。金利上昇や建設費用等の増加により顧客のCAPEXは高止まり、一部の顧客は投資決定のタイミングを慎重に判断。

米国による関税政策等の影響については動向を注視。

海外

【トランジションエネルギー】

- 脱炭素社会への現実的な移行に向け、**天然ガス（LNGを含む）**の重要性は共通認識となっており、**需要は中長期的に継続する見通しであり案件も豊富**。顧客は**E-Drive（電動化）**や**CCS**等の環境対策を講じながら設備投資計画を推進。

【サステナブル、産業インフラほか】

- 各国の政策や支援が後押しし、**水素、アンモニア、SAF、CCS**等を中心に計画検討が継続。一方、建設費高騰など様々な要因により、顧客の投資計画は**スローダウン傾向**。
- **半導体関連分野**や**データセンター**等の設備投資計画が東南アジアなどを中心に着実に進展。

国内

- サステナブル分野では、顧客が政府補助金を活用し計画。投資費用の増加等を受け**政府補助金の交付に時間を要する**状況は継続しており、投資計画は後ろ倒し傾向。一方、導入目標がある**SAF**などは計画が進展。
- ライフサイエンス分野では、**バイオ医薬品**などニューモダリティへの投資計画や既存施設改造計画などが進展。
- **食品関連**の設備投資も計画検討が進展。

© 2025 JGC HOLDINGS CORPORATION

2. 2025年度の受注目標

LNGを中心に案件は豊富に存在。
「利益確保と実現可能性」「リソース配置」「将来の糧」を軸に判断

2025年度

連結受注目標：6,500 億円

（換算レート：１米ドル＝140円）

【2025年度の主な注力案件】

分野	海外：5,000 億円	国内：1,500 億円
トランジションエネルギー	・アフリカ　LNG ・オセアニア　LNG ・北米　LNG（FEED） ・東南アジア　LNG/FPSO（FEED）	
サステナブル	・中東　アンモニア（FEED）　等	・SAF　等
産業インフラほか	・東南アジア　データセンター　等	・化学 ・食品関連工場（複数） ・医薬品製造工場（複数） ・原子力関連工事（複数） ・保全業務　等

© 2025 JGC HOLDINGS CORPORATION

3. 主要な遂行中プロジェクト

海外

LNGカナダ

出荷開始時期：2025年半ば
**進捗　**：
第1系列の運転開始に向け、プラント内設備の冷却など**最終準備に注力中**。

イラク バスラ製油所

完工年：2025年
**進捗　**：
建設工事が最終盤を迎えている。

国内

宮城県　バイオマス発電所

完工年：2025年
**進捗　**：
2025年3月にスケジュール通り、**建設工事が完了**。顧客への引き渡しに向け、試運転作業に注力。

米国 エチレン増設

完工年：非公表
**進捗　**：
詳細設計は終了。**調達もほぼ完了**。建設は基礎工事を終え、鉄骨・配管・電気計装等の後続工事が着実に進捗。今後も状況を注視。

サウジアラビア　原油ガス分離設備新設

完工年：2026年
**進捗　**：
詳細設計が終了し、調達品の8割が現場へ納入済。
建設工事はピークを迎え、配管工事が進行中。

© 2025 JGC HOLDINGS CORPORATION

4. 海外EPC遂行体制の強化

① 人材リソースマネジメントの強化

- 案件選別の判断基準として「利益確保（足元、中期）と実現可能性が高い案件」「リソース確保」「将来の糧」に重点
- FEED・見積段階からEPC受注後の遂行体制も見据え、**人材リソースが確実に配置できる案件に絞り込み配置不全を防止**
- 一部組織を統合し、**社会のエネルギートランジションのペースに合わせて人材リソースの流動性を確保**

②「リージョナル経営体制の強化」は一旦ブレーキ

- 海外グループ会社の役割を再定義。特にサウジアラビアとインドネシア子会社は、現在遂行中プロジェクトの完工に注力。一部子会社は業務縮小。

③ EPC遂行力の組織的強化

- 遂行中プロジェクトの**個別案件と組織横断でのモニタリング機能強化**

© 2025 JGC HOLDINGS CORPORATION

機能材製造事業

1. 2024年度実績と2025年度目標

半導体関連市場の需要は回復基調
米国による関税政策等の影響は不透明。動向を注視

2024年度実績/2025年度目標

	2024年度実績	2025年度目標
売上高	546億円	540億円

マーケット環境/2025年度の方針

触媒・ファインケミカル　日揮触媒化成（C&C）

<マーケット環境>

- FCC触媒やケミカル・環境触媒は、**顧客の交換需要の期ずれや大口案件の販売が減少**。
- **半導体や生活関連市場が回復、需要増の傾向**にあり、シリカゾルを中心とする**ファインケミカル製品全般で復調**。**化粧品材**についても海外需要が増加。

<2025年度方針>

- 触媒分野は、**海外顧客への拡販**、**低・脱炭素分野向け製品の展開**を推進。
- ファインケミカル分野は、シリカゾルなど高需要製品の増産と**販路の拡大**を目指す。

ファインセラミックス　日本ファインセラミックス（JFC）

<マーケット環境>

- 半導体製造装置市場は**回復傾向**で、**セラミックスやMMC※製品の需要が増加**。また、データセンター向けセラミックス製品の需要も増加。
- EVなど向け**高熱伝導窒化ケイ素基板**は**品質の高さも評価され、需要は引き続き拡大**。

※金属セラミックス複合材料

<2025年度方針>

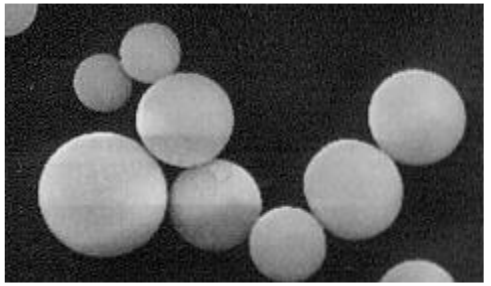
- 半導体製造装置関連部品は受注が回復傾向
- 高熱伝導窒化ケイ素基板は**生産能力を増強**し、需要に応えていく。

2. 生産能力強化に向けた設備投資を推進

中期経営計画・長期経営ビジョンで掲げた
「高機能材製造事業の拡大」に向けて、投資を推進中

日揮触媒化成（C&C）

- 同社北九州事業所において、**シリカゾル**増産設備が完成。**半導体研磨材向け**をはじめとする顧客の需要に応えていく
- **カーボンニュートラル燃料（合成燃料）用触媒及びケミカルリサイクル用触媒・吸着材**のほか、高速通信用材料や半導体用機能性研磨粒子などの**新規ファインケミカル製品の需要拡大**に向け、**2023年に取得した事業用地での設備投資計画を検討中**
- 2025年から2030年にかけて**総額約200億円**の設備投資（今般の事業用地購入費用を含む）を計画



同社の卓越したナノ技術を活かしたシリカゾルは、半導体の研磨材などに使用されている

日本ファインセラミックス（JFC）

- JFCが生産するパワー半導体向け高熱伝導窒化ケイ素基板は、**高い熱伝導率**に加えて、**優れた機械的性質や絶縁性**を有しており、2020年に量産化を開始。**現在は同社主力製品の一つにまで成長**
- 2024年10月には、自動車の電動化など**世界的な脱炭素社会の実現に対する同社の貢献が評価**され、米国セラミックス協会による「2024 Corporate Environmental Achievement Award(企業環境功労賞)」を受賞
- 自動車メーカーおよびパワー半導体回路基板メーカーからのさらなる増産要請に応えるため、宮城県富谷市にて**新工場を建設中**で、**2025年度半ばに本格操業開始**予定

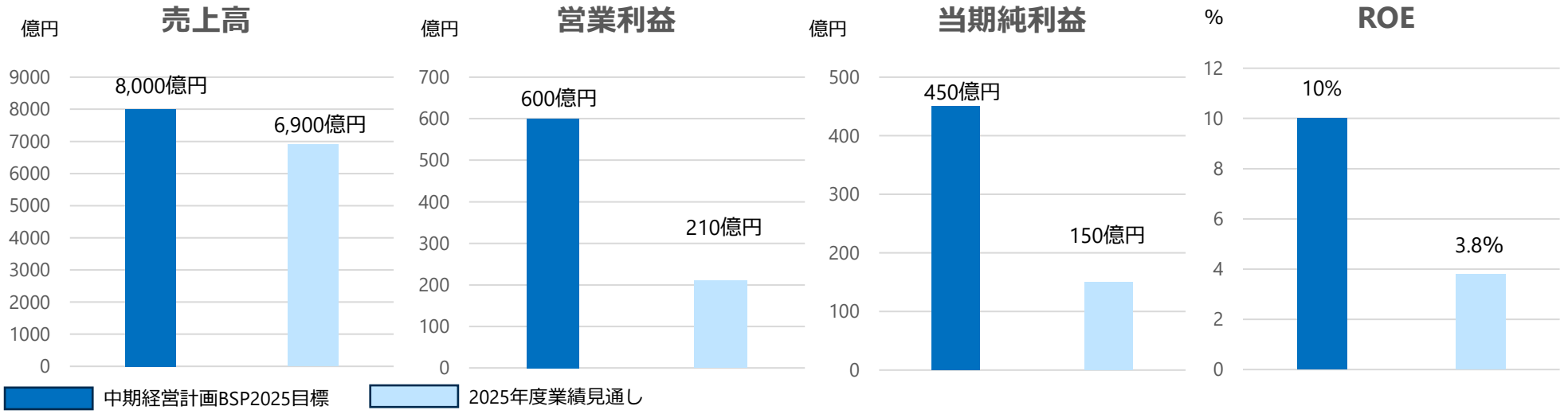
新工場完成予想図

© 2025 JGC HOLDINGS CORPORATION

中期経営計画の状況と対応すべきポイント

1. 中期経営計画の状況と対応すべきポイント

中期経営計画の財務目標の状況



- 売上高は総合エンジニアリング事業における底堅い受注や機能材製造事業の着実な成長等により、概ね目標を達成
- 一方、利益項目およびROEは、総合エンジニアリング事業における追加費用の計上により粗利益が低下し、未達の見通し

対応すべきポイント

- EPC事業の収益力の強化と安定化
- 成長分野である機能材製造事業のさらなる拡大に向けた戦略
- バイオものづくりをはじめとする将来の成長事業への積極的な取り組み
- 「資本コストや株価を意識した経営」を念頭に置いた事業戦略の策定
- 成長戦略投資の早期利益貢献に向けた取り組みの継続

© 2025 JGC HOLDINGS CORPORATION

Appendix

3つの重点戦略に対する進捗と展望

重点戦略の方針は変更なし

	現状認識と見通し	今後の方針
EPC事業のさらなる深化	• EPC遂行体制の立て直しが急務 • LNGを中心に大型EPCの設備投資は着実に進展 • 国内医薬品は案件豊富だが、CAPEXが上昇傾向 • アジア地域の地産地消案件には苦戦	• 「利益確保と実現性が高い案件」、「リソース確保」、「将来の糧」を判断基準に案件の絞り込みと保有リソースの適切な配分を継続 • 日揮グローバル経営チームを強化しEPC遂行体制立て直し策推進を継続
高機能材製造事業の拡大	• 触媒製品は海外顧客需要の期ずれで需要低下 • カーボンリサイクル、ケミカルリサイクルへの国内メーカーの取り組みは想定より遅延 • 半導体マーケットは回復基調 • 引き続きEV関連部品需要は拡大	• 機能材製造2社で取得した工場用地に、ケミカル触媒、ファインケミカル、窒化ケイ素基板の設備投資を実施 • 半導体マーケットの本格回復に向けた生産体制準備、効率化
将来の成長エンジンの確立	• 国内洋上風力の採算に課題 • 水素、アンモニアマーケットの立ち上がり進捗が鈍化傾向 • SAF需要の顕在化 • 半導体周辺産業やデータセンターなどの設備投資計画が活況	• サステナブル分野への進出を進める方針は維持しつつ、案件の選別は継続 • 水素、アンモニア対応組織の維持と、協業による応札やFS/FEEDの遂行 • Exyteとの協業による先端技術産業分野のFS/FEEDの遂行

© 2025 JGC HOLDINGS CORPORATION

成長戦略投資に対する進捗

2,000億円の枠に対し、研究開発や設備投資を中心に累計約**910億円**の投資を実施。
2025年度に投資する案件（社内投資決定済）を含めると、約**1,150億円**に

	21~24年度累計実績
EPC事業のさらなる深化	・EPC DX・遂行技術関連投資　・高田工業所の株式取得　など ・インド・オペレーションセンターの設立・運営 ・IHIプラント医薬品分野事業譲受
高機能材製造事業の拡大	・高熱伝導窒化ケイ素基板関連の設備投資 ・工場用地取得 ・生産設備更新・増強、R&D　など
将来の成長エンジンの確立	・インテグナンスVR ・フードテック関連 ・ヘルスケア関連追加投資 ・DDR商業化 ・バイオものづくり ・SAF製造事業 ・CVC ・スタートアップ投資ファンドへの出資 ・アンモニア関連　など

M&Aを含め、引き続き**成長戦略投資を継続**

© 2025 JGC HOLDINGS CORPORATION

(ご参考) CPOに就任する赤羽根氏の略歴

本年6月1日付で日揮ホールディングス副社長執行役員Chief Project Officer (CPO)として、過去に日揮グローバル副社長執行役員を務めた赤羽根 勉氏を登用。（別途、東証適時開示文書でも開示済）

同氏は、プロジェクトマネージャー等として、これまでいくつもの海外大型EPCプロジェクトを率いて、成功裏に完遂してきた実績を持つ。メジャーオイルからの信頼も厚い。

日揮ホールディングス副社長執行役員CPOとして、EPC事業（特に海外大型案件）おける戦略策定、意思決定、遂行体制、主要顧客対応等でCEOをサポート

＜略歴＞

1977年に日揮（現 日揮ホールディングス）入社。

2000年にプロジェクトマネージャーとして、マレーシア向けLNGプラント建設プロジェクトを成功裏に完遂。2006年にはカタール向け大型GTLプロジェクトの受注・遂行に大きく貢献。

2007年に執行役員、2009年に取締役に就任し、海外EPCプロジェクト統括部門の本部長などとして海外EPCプロジェクト全体を管理。2015年に取締役副社長執行役員に就任。

2019年、持株会社体制移行に合わせて、日揮グローバル代表取締役副社長執行役員に就任。2024年に同社副社長執行役員を退任した後に同社Strategic Projects Executive（現職）としてLNGカナダプロジェクトをサポート

© 2025 JGC HOLDINGS CORPORATION

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。
従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。
本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

<本資料に関するお問い合わせ先>

日揮ホールディングス株式会社
戦略企画オフィス　経営企画ユニット
コーポレートコミュニケーショングループ
Tel : 045-682-8026　Fax : 045-682-1112
E-mail: ir@jgc.com

© 2025 JGC HOLDINGS CORPORATION